

昭和58年度重要貝類毒化対策事業

(3) 東北・北海道沿岸海域における *D. fortii* の分布動態

(要約)

尾坂 康

はじめに

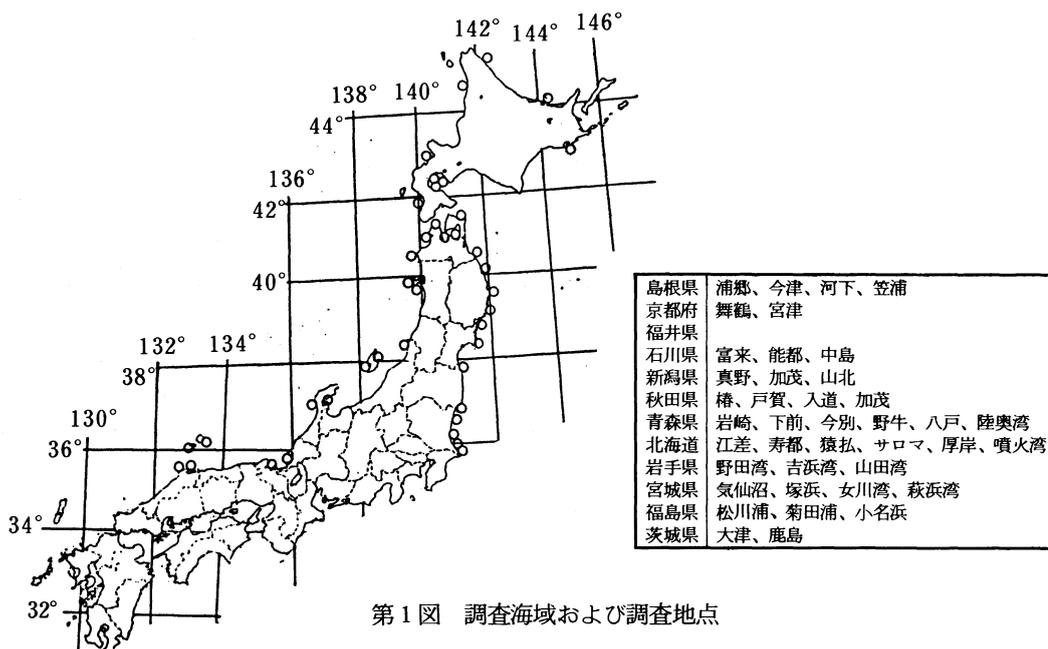
重要貝類毒化対策事業の一環として、東北・北海道沿岸海域における *D. fortii* の分布動態についてとりまとめた。

調査方法

昭和58年4月～9月まで東北・北海道ブロック（重要貝類毒化対策事業のブロック区分）の各県、道で調査した沿岸域分布調査の結果を整理した。更に、秋田県以南における日本海ブロックの日本海沿岸海域の *D. fortii* の出現状況の資料も入手し解析に供した。

海域および調査地点

各海域の調査地点を○で表示し、第1図に示した。



第1図 調査海域および調査地点

沿岸海域における *D. fortii* の分布動態のとりまとめ県として既往の資料および昭和58年度の各研究機関の結果を整理したものである。詳細については、昭和59年3月、昭和58年度重要貝類毒化対策事業報告書（東北・北海道沿岸海域における *D. fortii* の分布動態）を参照

結 果

- *D. fortii* は、4月に日本海南部で1,000細胞/ℓ以上の濃密な出現がみられたことから、*D. fortii* の起源は更に南下するものと考えられた。
- *D. fortii* は、最初に日本海側から増え始め、次いで陸奥湾、三陸沿岸、太平洋東北南部へと推移し、対馬、津軽暖流水の流路と一致した。
- *D. fortii* は、沖合よりも特に沿岸域で濃密に分布する傾向があった。
- 東北北部沿岸では、*D. fortii* の出現期間が他の海域に比較して長期化する傾向があった。
- 海水交換の緩慢な内湾では、*D. fortii* が濃密に分布し、また遅くまで出現する傾向があった。
- 本年の *D. fortii* の出現パターンは、昭和56年、57年と同様な分布の様相を示した。
- *D. fortii* は、水温8~16℃、塩分32.0~34.0%の範囲で特に濃密に出現した。
- *D. fortii* は、水温20℃を越えると各沿岸海域で減少した。
- *D. fortii* の分裂細胞が多く出現した水温、塩分は、それぞれ9~12℃、33.8~34.0%の範囲であった。また分裂細胞が多くみられた出現期間は、4月~6月であった。
- *D. fortii* は3月~4月の水温8℃~10℃の対馬暖流水、津軽暖流水に運ばれながら増加していった。この時期、太平洋沿岸では、8℃以上の海域でも全く出現しなかった。
- 太平洋沖合の *D. fortii* は、暖流水（津軽、黒潮）と冷水（親潮）との混合域でみられた。
- *D. fortii* は、水深10~30m層の中層に多く出現した。その原因として水温躍層、照度が関係あると考えられた。